

第52回 卒業証書授与式 校長式辞

中庭の梅の木にも早春の息吹が感じられる今日の佳き日、52回生の皆さんとの、寂しくも喜ぶべき別れの時がまいりました。

本日は、公私ともご多用の中、育友会長 常田 美由紀 様ほか、ここまで支えてくださいました保護者、ご家族の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立尼崎小田高等学校第52回卒業証書授与式をこのように盛大に挙行できますことを心から嬉しく思い、厚く御礼申し上げます。

ただいま卒業証書を授与しました274名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。この尼崎小田高校で過ごした年月は、皆さんにとってかけがえのない、思い出深いものであったと思います。卒業式に臨み、皆さんの胸の中には、文化祭、体育大会、修学旅行などの学校行事、日々の授業やボランティア活動、そして、仲間とともに頑張った部活動など、様々な思い出が走馬灯のようによみがえっているのではないのでしょうか。

たくさんの仲間と出会い、切磋琢磨する中で、悩みや苦しみを経験しながらも、多くの達成感や充実感を味わうことで、大きく成長した3年間であったと思います。この3年間の思い出を、これからの人生の中で自分を高めていく良き糧として、心に残しておいてください。

さて、皆さんがこれから迎える時代は、知識の吸収にだけ長けていても活躍できない、自分で新しいものを創り上げていかなければならない時代。激しい変化が短いスパンで起こり、それに柔軟に対応する力を持たなければならぬ時代です。そして、そこでは、人間に対する誠実さや責任感、覚悟、そして、情熱等のマインドセットを持ち続けることが不可欠です。

これから日本国内のみならず、国際社会という大海原へこぎ出していく皆さんには、本校での学びを礎として、進みゆく社会の様々な場所で優れたリーダーシップを発揮し、その分野を牽引していただきたい。本日がその決意を固める記念すべき日となることを願います。

ここで、卒業される皆さんへ餞（はなむけ）の言葉を贈ります。

次世代を見据えた自動車開発や積極的な情報戦略等により、世界のトヨタの地位を確固たるものにした、トヨタ自動車の豊田章男代表取締役会長の言葉です。

「何が起こるかわからない激動の時代。だからこそ変えてはいけないぶれない軸と未来のために今を変える勇気と覚悟が必要である。」

創立53年を迎えた尼崎小田高校の伝統もそうであるように、伝統は革新の積み重ねで生まれます。変化に憶することなく革新を実現するには、正しい答えのないものに挑戦しなければなりません。そこには周囲からの反対や成功が約束されていない不安もついてまわり、非常に大きなエネルギーを必要とします。しかし、新しい世界を拓くことができます。挑戦した者だけが見ることを許される新しい景色を楽しむことができます。どうか、皆さんがこの尼崎小田高校で身につけた、学力や数値で測ることのできない、主体性、コミュニケーション能力、レジリエンス、創造性などの力を駆使し、挑戦者として大きな夢を持ち、高い志を掲げ、これからの人生をたくましく歩んで下さい。

最後になりましたが、保護者の皆様に一言申し上げます。お子様には3年間の努力が実って本日のご卒業を迎えられたこと、誠におめでとうございます。私どもは、お子様をお預かりして三年間、不十分な点もあったかとは思いますが、全力で教育にあたっていました。ここにいたるまでに賜りましたご理解、ご支援に対し、この場を借りて深く感謝申し上げます。何よりも、私どもは、素直で素晴らしい生徒と、この尼崎小田高校で一緒に生活できたことを誇りとし、嬉しく思っています。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時がきました。皆さんの人生は素晴らしいものであるとともに、時には厳しいことを経験するかも知れません。嬉しい時、悲しい時、迷うこともあるに違いありません。そのような時、いつでも母校を思い出し、訪れてください。皆さんが過ごしたこの学舎（まなびや）や、そして先生方は、温かく皆さんを迎えてくれるはずです。尼崎小田高校は、そのような学校であり続けたいと強く思っています。

本日、尼崎小田高校の校門を出て、素晴らしい人生に繋がる道を、胸を張って進んでください。皆さんの新たな一歩と、それに続く未来が光輝くものとなることを心から祈念し、式辞といたします。

令和8年2月27日

兵庫県立尼崎小田高等学校長 山 根 尚